

令和6年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市北老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- （3）消防設備定期点検
- （4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- （1）職員資質向上のための研修
- （2）老人福祉センター利用案内の作成
- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数4回、延参加者数57名）
区社会福祉協議会、包括支援センター等関係機関と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- （2）介護予防（実施回数218回、延参加者数5,137名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（30同好会、実施回数612回、延参加者数7,979名）
実行委員会を開催し、舞台発表会、作品展に向けて自主的・主体的な活動への支援
新しく地域のサークル活動を同好会として受入
ボランティア活動への支援など（延参加者数656名）
老人会等地域の高齢者への支援（延参加者数978名）
- （4）教養講座（実施回数31回、延参加者数489名）
看護師による講座実施等、高齢者の生活改善
認知症講座実施等認知症への理解を深めた
- （5）地域交流事業
多世代交流事業（実施回数5回、延参加者238名）
- （6）各種相談（相談件数57件）
- （7）一般娯楽（実施回数592回、延参加者数6,785名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁など）スケジュールを工夫
大人のぬり絵等参加者増加講座については、多くの方が参加できるように工夫
- （8）各種広報紙の発行（約1,500部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （9）その他
 - ・消防署指導による合築施設合同避難訓練
 - ・合築施設共有部分等、各階と連携、協力
 - ・園芸ボランティア協働による共有部分の園芸作業を実施

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、契約職員1名、

臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、200万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、200万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

26,747 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 293日)

(3) 収支実績

ア 令和6年度収入状況 (単位: 円)

委託料	9,992,687
その他	221,299
収入計	10,213,986

イ 令和6年度支出状況 (単位: 円)

人件費	7,779,190
事業費	1,989,248
委託費	102,390
小額修繕費	10,450
その他	
支出計	9,881,278

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- (1) つながるサロン 「ケアマネージャーさんってしてますか」
つなげるサロン感想と要望を知り、今後の事業計画に役立てるためアンケートを実施
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。
【設問数】3問1.は複数化、選択式 1問自由記述
【回答数】18
- (2) つながるサロン「カルシウムを摂りましょう」
つなげるサロン感想と要望を知り、今後の事業計画に役立てるためアンケートを実施
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述で実施
【設問数】3問選択式 1問自由記述
【回答数】13

(2) 利用者満足度把握の結果

- (1) つながるサロン 「ケアマネージャーさんってしてますか」
①専門家の話が聞きたかった66%、テーマに関心があった38%、日常に役立つと思った16%、知り合いに誘われた44%、その他1%
②とてもよかった50%、よかった44%
③サロンを知った方法広報紙72%、チラシ・ポスター11%、市民しんぶん5%、ホームページ0%、知人に誘われた5%
- (2) つながるサロン 「カルシウムを摂りましょう」
①専門家の話が聞きたかった100%、テーマに関心があった23%、日常に役立つと思った53%、知り合いに誘われた0%、その他0%
②とてもよかった84%、よかった7%
③サロンを知った方法広報紙61%、チラシ・ポスター7%、市民しんぶん0%、ホームページ7%、知人に誘われた7%

(3) 意見等への主な対応状況

- (1) (2) 関係機関と情報共有し令和7年度 つながるサロン事業計画時に役立てた。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防事業では、つながるサロンの一環で、北区地域介護予防推進センターと連携・協働した「ハッスルマッスル」「脳トレ×筋力UP体操」等を通実施した。教養講座では、スマホ講座を複数回実施し、高齢者のスキルアップにつながった。また、地域の老人クラブ、ボランティア団体に施設会場を提供し活動を支援した。

令和6年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市上京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時
【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
【管理業務】 (1) 窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） (2) 施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） (3) 消防設備定期点検 (4) 開所・閉所時の安全点検
【サービス向上のための取組】 (1) 職員資質向上のための研修 (2) 老人福祉センター利用案内の作成 (3) 施設・備品の団体利用についての規則を明確化 (4) 苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 (5) 安全確保のための事故報告書等の事例共有
（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

(1) 高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数14名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
(2) 介護予防（実施回数954回、延参加者数13,727名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
(3) 高齢者自主活動支援 同好会活動の支援（30同好会、実施回数586回、延参加者数7,306名） ボランティア活動への支援など（延参加者数584名） 上京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数808名）
(4) 教養講座（実施回数37回、延参加者数1,044名） 安定した参加者数を確保するため、伝統産業など上京区に特化した文化講座を実施
(5) 地域交流事業 多世代交流事業（実施回数6回、延参加者420名） 共同事業（実施回数1回、延参加者数25名）
(6) 生きいきサロン（実施回数32回、延参加者数472名） 虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う
(7) 各種相談（相談件数13件）
(8) 一般娯楽（実施回数234回、延参加者数3,951名） いつでも誰でも参加できるつどい（カラオケ・囲碁など）を実施
(9) 各種広報紙の発行（約2,300部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
(10) その他 ・実習生の受入れ（京都府立医科大学医学部看護学科59名、京都府医師会看護専門学校8名、 京都中央看護保健大学校6名、京都保健衛生専門学校8名） ・上京区エコまちステーション場所提供 ・上京老セン、上京デイ、上京児童館との合同消防訓練

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員2名 計4名
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、200万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、200万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

31,902 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 294日)

(3) 収支実績

ア 令和6年度収入状況 (単位 : 円)

委託料	13,501,029
その他	222,055
収入計	13,723,084

イ 令和6年度支出状況 (単位 : 円)

人件費	9,593,345
事業費	3,139,437
委託費	826,070
小額修繕費	9,900
その他	
支出計	13,568,752

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 「認知症に見られるいろいろな症状には、実は理由があります！」 参加者の年齢・居住区・感想・要望などを知るために行った 【方法】選択方式と自由記述で実施 【設問数】5問 【回答数】37
(2) 「スポーツボイス講座」 参加者の年齢・居住区・感想・要望などを知るために行った 【方法】選択方式と自由記述で実施 【設問数】5問 【回答数】29

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) の結果について 【選択方式から抜粋】 とても参考になった73%、少し参考になった22%、内容が物足りなかった2.5%、 無回答2.5% 【自由記述から抜粋】 ・認知症のついでの種類と対応を知ることができ大変有意義でした。 ・やはり精神科の先生のお話だったので、わかりやすくよかったです。 ・子供たちに聞かせたいです。 ・老老介護なのでとても参考になりました。 ・よい勉強になりました。ありがとうございました。 ・また次回があればゆつくと。
(2) の結果について 【選択方式から抜粋】 すごく良かった48%、良かった41%、普通7%、良くなかった4% 【自由記述から抜粋】 ・ユニークな内容で楽しかったです。 ・いつも楽しくさせてもらっています。 ・誤嚥性肺炎の予防になりました。 ・友人にも勧めます。 ・大変効果を感じることができました。 ・楽しく説明があって良かったと思います。 ・80才すぎの者にはとてもきつかったです。 ・とても体が温まり、カラオケもしているので、とても役に立ちました。

(3) 意見等への主な対応状況

- | |
|--|
| (1) アンケートの結果は長寿すこやかセンターと共有し、今後の講座の参考とする。
(2) アンケートの結果は第一興商と共有し、今後の講座の参考とする。 |
|--|

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

「初めての利用者を歓迎する上京福祉センターづくり」として、良質な接遇の実践、娯楽性の高い講座を行う等、集客性を高める取り組みを行った。

介護予防の取組として、健康づくりに寄与する新規の講座「健康体操教室」「マッサージ体験」等を実施、上京区地域介護予防推進センターと連携して「公園体操」「介護予防講座よってや」を実施した。教養講座では、「認知症サポーター養成講座」の他、上京の文化を企画するボランティアコーディネーターと連携し、ほぼ年間を通して上京区に特化した文化講座「天神さまの信仰と歴史」「陰陽師 安倍晴明公の神社」等を実施した。

令和6年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市左京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- （3）消防設備定期点検
- （4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- （1）職員資質向上のための研修
- （2）老人福祉センター利用案内の作成
- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数25名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- （2）介護予防（実施回数398回、延参加者数7,866名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（40同好会、実施回数1,386回、延参加者数22,868名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数2,124名）
左京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数443名）
- （4）教養講座（実施回数32回、延参加者数846名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- （5）地域交流事業
多世代交流（実施回数8回、延参加者数190名）
共同事業（実施回数3回、延参加者数167名）
- （6）生きいきサロン（実施回数47回、延参加者数898名）
虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。
- （7）各種相談（相談件数46件）
- （8）一般娯楽（実施回数80回、延参加者数3,117名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
- （9）各種広報紙の発行（約1,600部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （10）その他
 - ・合築施設合同消防訓練
 - ・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校、佛教大学看護学科、京都中央看護保健大学看護保健学科）
 - ・下鴨警察による交通安全教室・詐欺教室
 - ・LINE公式アカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、嘱託職員1名、契約職員1名、臨時職員1名 計4名

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、200万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、200万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

39,987 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 293日)

(3) 収支実績

ア 令和6年度収入状況 (単位: 円)

委託料	29,559,514
その他	208,971
収入計	29,768,485

イ 令和6年度支出状況 (単位: 円)

人件費	13,005,078
事業費	3,337,850
委託費	12,436,032
小額修繕費	99,350
その他	
支出計	28,878,310

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- (1) 認知症講座(動画上映) (令和6年8月29日)
京都光華女子大学光華ものわすれ・フレイルクリニック 院長 上田敬太氏の動画
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述で実施
【設問数】9問
【回答数】23件
- (2) 認知症サポーター養成講座 (令和6年9月18日)
地域包括支援センターや居宅系サービス、訪問看護ステーションなどの専門職による講座
【方法】同好会世話人を中心とした参加者に対し、選択方式と自由記述で実施
【設問数】4問
【回答数】31件
- (3) 芝居を作ろう! 演劇体験 (令和6年11月12日)
プロの俳優と演出家を招いた参加型講座
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述で実施
【設問数】6問
【回答数】15件
- (4) フレイル予防講座 (令和6年11月22日)
オーラルフレイル教室と題し、お口の健康増進体操と栄養の講座
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述で実施
【設問数】5問
【回答数】29件
- (5) ぽっけ工作教室 (令和6年12月14日)
京都工芸繊維大学科学・ものづくり教育普及プロジェクトの工作教室
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述で実施
【設問数】9問
【回答数】34件
- (6) 盆踊りのつどい (令和6年12月4日~12月25日)
盆踊りのつどいの参加希望人数が増大したため、参加者の意向調査
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述で実施
【設問数】3問
【回答数】84件

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) の結果について 【選択方式から抜粋】 とても参考になった74%、少し参考になった18%、難しく理解できなかった4%、 その他4%
(2) の結果について 【選択方式から抜粋】 よく理解できた23%、理解できた61%、理解できなかった3%、無記入13%
(3) の結果について 【選択方式から抜粋】 ワークショップに満足した80%、どちらかといえば満足した13%、どちらとも言えない7%
(4) の結果について 【選択方式から抜粋】 大変参考になった59%、参考になった38%、未記入3%
(5) の結果について 【選択方式から抜粋】 また来たい100%、とても面白かった76%、おもしろかった21%、未記入3%
(6) の結果について 【選択方式から抜粋】 参加状況毎週71%、1・3週4%、2・4週15%、その他10%、今後月2回希望51%、 どちらも29%、毎週希望15%、その他5%

(3) 意見等への主な対応状況

(1) 結果は長寿すこやかセンターと共有し、今後の事業の参考とする。
(2) 結果は高野地域包括支援センター、訪見たんぼぼ等6事業所と共有し、来年度の参考とする。
(3) 結果は講師のロームシアター京都と共有し、来年度の参考とする。
(4) 結果は左京区介護予防推進センターと共有し、来年度の参考とする。
(5) 結果は京都工芸繊維大学科学・ものづくり教育学科と共有し、来年度の参考とする。
(6) 結果を参加者へ発表し、毎週参加から月2回参加へスムーズに移行でき、ホール定員内で安全 に開催継続できている。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。 介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。 収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。 知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。 同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。 事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。 障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。 介護予防の取組として、「公園体操in左京老セン」、左京区地域介護予防推進センターと連携した「コアバランスエクササイズ」「らくらくエアロビクス」等を実施した。講師による「左京老セン歴史講座」、関係機関による「スマホ体験講座」、職員による「季節の折り紙講座」等を実施した。その他高齢者自主活動支援事業教養講座では、おもちゃ修理ボランティア活動を行う「左京トイクリニック」では、児童館への出張も定期的実施、来年度「認知症サポーター養成講座」にてマスコットブローチを配布できるよう「ロバ隊長のサロン」を新たに立ち上げた。
--

令和6年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市中京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時 【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日） 【管理業務】 （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） （3）消防設備定期点検 （4）開所・閉所時の安全点検 【サービス向上のための取組】 （1）職員資質向上のための研修 （2）老人福祉センター利用案内の作成 （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化 （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有 （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。
--

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数2回、延参加者数47名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成 （2）介護予防（実施回数353回、延参加者数5,144名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援 （3）高齢者自主活動支援 同好会活動の支援（22同好会、実施回数627回、延参加者数8,889名） ボランティア活動への支援など（延参加者数143名） 中京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数33名） （4）教養講座（実施回数29回、延参加者数618名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応 （5）地域交流事業 多世代交流（実施回数3回、延参加者数160名） （6）各種相談（相談件数20件） （7）一般娯楽（実施回数434回、延参加者数8,700名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋・卓球など）を実施 （8）各種広報紙の発行（約1,200部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知 （9）その他 ・防火講座、防災訓練、シェイクアウト訓練の実施 ・実習生受入れ（京都保健衛生専門学校8名、近畿高等専門学校3名） ・就労チャレンジ体験の受入れ ・LINEアカウントでの情報発信 ・リユース伝言板の活用（マッチング29件）

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、契約職員1名 臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、200万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、200万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

30,208 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 293日)

(3) 収支実績

ア 令和6年度収入状況 (単位 : 円)

委託料	10,001,068
その他	223,897
収入計	10,224,965

イ 令和6年度支出状況 (単位 : 円)

人件費	7,799,869
事業費	2,881,646
委託費	278,701
小額修繕費	880
その他	
支出計	10,961,096

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

参加者の感想や要望を知り、内容の充実を図るためアンケートを行った。

- (1) あなたの魅力を引き出す四葉のクローバー
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述
【設問数】4問
【回答数】18
- (2) スマホ使い方勉強会
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述
【設問数】4問
【回答数】16
- (3) 手づくり講座
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述
【設問数】4問
【回答数】15
- (4) 健康講座
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述
【設問数】4問
【回答数】25
- (5) 英語落語
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述
【設問数】4問
【回答数】19
- (6) 高松神社と大河ドラマ「光る君へ」のお話
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述
【設問数】4問
【回答数】31
- (7) テレビゲームでボーリング大会
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述
【設問数】4問
【回答数】33
- (8) スマホ講習会
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述
【設問数】4問
【回答数】12
- (9) スポーツボイストライアルデモ
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述
【設問数】4問
【回答数】23
- (10) 血管年齢測定会
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述
【設問数】4問
【回答数】24

- (1 1) らくちん衣替え
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述
【設問数】4問
【回答数】19
- (1 2) ちぎり絵講座
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述
【設問数】4問
【回答数】6
- (1 3) スマホ相談会
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述
【設問数】4問
【回答数】12
- (1 4) 元気ワクワク健康教室
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述
【設問数】4問
【回答数】29
- (1 5) 高島屋の歴史からひも解く京都の歴史秘話
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述
【設問数】4問
【回答数】32
- (1 6) BTS (ボタン取付けサービス)
【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述
【設問数】3問
【回答数】8

(2) 利用者満足度把握の結果

設問 ①講座を何でお知りになりましたか ②内容はいかがでしたか ③今後も参加したいか

- (1) あなたの魅力を引き出す四つ葉のクローバーアンケート結果
① 広報紙83.3% ポスター11.1% ライン16.7%
② 楽しかった27.2% 参考になった72.2%
③ そう思う94.4% どちらかというと思う5.6%
- (2) スマホ使い方勉強会結果
① 広報紙31.3% ポスター56.3% 知人6.3% ライン6.3%
② 楽しかった18.8% 参考になった75.0% 少し難しかった6.3%
③ そう思う93.8% どちらかというと思う6.3%
- (3) 手づくり講座アンケート結果
① 広報紙53.3% ポスター33.3% 知人20.0% ライン6.7%
② 楽しかった73.3% 参考になった6.7% 少し難しかった20.0%
③ そう思う86.7% どちらかというと思う6.7% どちらかというと思わない6.7%
- (4) 健康講座アンケート結果
① 広報紙48.0% ポスター40.0% 知人4.0% ライン8.0%
② 楽しかった48.0% 参考になった52.0%
③ そう思う100%
- (5) 英語落語アンケート結果
① 広報紙26.3% ポスター52.6% 知人5.3% ライン15.8%
② 楽しかった94.7% 少し難しかった5.3%
③ そう思う84.2% どちらかというと思う10.5%
どちらかというと思わない5.3%
- (6) 高松神明神社と大河ドラマ「光る君へ」のお話アンケート結果
① 広報紙35.5% ポスター51.6% 知人3.2% ライン16.1% その他3.2%
② 楽しかった45.2% 参考になった38.7% 少し難しかった16.1%
③ そう思う90.3% どちらかというと思う9.7%
- (7) テレビゲームでボーリング大会アンケート結果
① 広報紙24.2% ポスター48.5% 知人6.1% ライン12.1% その他9.1%
② 楽しかった100%
③ そう思う100%
- (8) スマホ講習会アンケート結果
① 広報紙58.3% ポスター33.3% ライン16.7%
② 参考になった75.0% 少し難しかった16.7% その他8.3%
③ そう思う75.0% どちらかというと思う25.0%
- (9) スポーツボイストライアルデモアンケート結果
① 広報紙60.9% ポスター26.1% 知人4.3% ライン8.7%
② 楽しかった73.9% 参考になった17.4% 少し難しかった8.7%
③ そう思う95.7% どちらかというと思う4.3%
- (1 0) 血管年齢測定会アンケート結果
① 広報紙45.8% ポスター45.8% 知人4.2% ライン8.3%

- (1 1) らくちん衣替えアンケート結果
 ① 広報紙52.6% ポスター26.3% ライン21.1%
 ② 楽しかった36.8% 参考になった63.2%
 ③ そう思う89.5% どちらかというとそう思う10.5%
- (1 2) ちぎり絵講座アンケート結果
 ① 広報紙16.7% ポスター66.7% その他16.7%
 ② 楽しかった83.3% 参考になった16.7%
 ③ そう思う100%
- (1 3) スマホ相談会アンケート結果
 ① 広報紙33.3% ポスター50.0% 知人8.3% ライン8.3%
 ② 楽しかった41.7% 参考になった50.0% 少し難しかった8.3%
 ③ そう思う100%
- (1 4) 元気ワクワク健康教室アンケート結果
 ① 広報紙51.7% ポスター27.6% 知人3.4% ライン13.8% その他6.9%
 ② 楽しかった41.4% 参考になった58.6%
 ③ そう思う96.6% どちらかというとそう思う3.4%
- (1 5) 高島屋の歴史からひも解く京都の歴史秘話アンケート結果
 ① 広報紙62.5% ポスター21.9% 知人3.1% ライン6.3% その他9.4%
 ② 楽しかった56.3% 参考になった43.8%
- (1 6) BTS（ボタン取付けサービス）アンケート結果
 ① 広報紙37.5% ポスター37.5% その他25.0%
 ② 長く続けてほしい12.5% 無回答87.5%
 ③ 良かった62.5% 無回答37.5%

(3) 意見等への主な対応状況

- (1) アンケート結果を共有し、今後の事業において、内容充実に活かす。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取り組みとして、中京介護予防推進センター、筋トレボランティアと共に健康長寿の事業を進め介護予防への関心を高め、多様な健康づくりの機会を提供した。また、気軽に参加できる事業として、「地域性」、「スマホ関係」、「健康関係」、「認知症」等身近に興味のあるプログラムの提供や、隣接する施設等と協力し、多世代交流（朱一保育園とのお茶会）、セラピードッグとのふれあい（みぶ身体障害者会館）を開催した。高齢者自主活動支援事業では、盆踊り同好会でテレビの取材や動画配信があり、利用者や家族にも同好会の楽しさを発信できた。

令和6年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市東山老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時 【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日） 【管理業務】 （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） （3）消防設備定期点検 （4）開所・閉所時の安全点検 【サービス向上のための取組】 （1）職員資質向上のための研修 （2）老人福祉センター利用案内の作成 （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化 （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有 （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。
--

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数2回、延参加者数44名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成 （2）介護予防（実施回数263回、延参加者数3,078名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援 （3）高齢者自主活動支援 同好会活動の支援（23同好会、実施回数679回、延参加者数6,949名） ボランティア活動への支援など（延参加者数437名） 東山区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数1,284名） （4）教養講座（実施回数32回、延参加者数545名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応 （5）地域交流事業 多世代交流（実施回数1回、延参加者数31名） （6）各種相談（相談件数50件） （7）一般娯楽（実施回数1030回、延参加者数5,734名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋・卓球など）を実施 （8）各種広報紙の発行（約700部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知 （9）その他 ・京都女子大学大学院生（家政学研究科博士後期課程）アンケート調査 （高齢者施設入所者の食行動に及ぼす食環境の影響）実施協力 ・消防計画に基づき、防災設備点検の実施 ・東山消防署による特殊詐欺対策普及啓発
--

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、契約職員1名 臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、200万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、200万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

20,812 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 293日)

(3) 収支実績

ア 令和6年度収入状況 (単位 : 円)

委託料	8,070,432
その他	219,577
収入計	8,290,009

イ 令和6年度支出状況 (単位 : 円)

人件費	7,699,359
事業費	1,360,479
委託費	129,930
小額修繕費	33,000
その他	
支出計	9,222,768

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- (1) 令和6年度東山老人福祉センター同好会発表会・作品展来場者アンケート
今年度の参加者の状況を知ることにより来年度以降の開催の参考にするためアンケート調査を実施した。

【調査数】5問

【回答者数】35人

- (2) 令和7年に向けた健康増進教室・男塾アンケート
7年度実施にあたり、現状維持か変更すべきなのかを利用者にアンケートを行った。

【調査数】3問

【回答者数】27人

(2) 利用者満足度把握の結果

- (1) 同好会発表会・作品展来場者アンケートの結果

①年齢 80代 20人 70代 11人 60代 1人 60歳未満 3人

②性別 男5人 女30人

③住所 東山区 27人 山科区 2人 北区1名 左京1名 中京区1名 下京1名 記入なし1名

④来場のきっかけ 友人や家族の発表を見るため11名 広報紙7名 友人、知人に誘われた3名

前から気になっていた3名 その他等13名

⑤発表会・作品展いかがでしたか 良かった30名 ふつう5名

- (2) 健康増進教室・男塾アンケートの結果

①クラス分け 健康増進教室は女性限定がいい13名 6年度のまま8名 どちらでもいい6名

②運動の強度 ちょうどよい18名 物足りない9名

③5年度と6年度のやり方の変更について 今年度がいい10名 昨年度がいい8名 どちら

(3) 意見等への主な対応状況

- (1) アンケートの結果は、7年度の同好会発表会・作品展の参考とする。

- (2) クラス分けについては、健康増進教室は女性限定。男塾は男性限定。

7 評価 (指定管理者自己評価)

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

その他、東山区社会福祉協議会等の関係機関と連携し、高齢者支え合い活動入門講座や認知症サポーター養成講座等実施し、地域づくりを推進するとともに、東山地域介護予防推進センターと連携し、健康増進教室等の介護予防事業の取組を推進した。高齢者にとって身近で気軽な相談窓口としての役割が果たせるよう心掛けた。また、高齢者自主活動支援事業として、東山区役所の「東山区民ふれあい作品展」に書道、絵手紙等の同好会が参加し、区民にセンターを知ってもらうきっかけになった。

令和6年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市山科老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- （3）消防設備定期点検
- （4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- （1）職員資質向上のための研修
- （2）老人福祉センター利用案内の作成
- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数21名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- （2）介護予防（実施回数134回、延参加者数4,352名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（37同好会、実施回数836回、延参加者数9,066名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数0名）
山科区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数31名）
- （4）教養講座（実施回数34回、延参加者数600名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- （5）地域交流事業
多世代交流（実施回数1回、延参加者数12名）
- （6）各種相談（相談件数5件）
- （7）一般娯楽（実施回数632回、延参加者数6,287名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋・卓球など）を実施
- （8）各種広報紙の発行（約750部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （9）その他
 - ・消防訓練（通報訓練、避難訓練、消火訓練）の実施
 - ・実習生受入れ（勤修地域包括支援センターの実習生5名）
 - ・LINEアカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、契約職員1名

臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、200万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、200万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

22,430 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 293日)

(3) 収支実績

ア 令和6年度収入状況 (単位: 円)

委託料	9,971,735
その他	72,247
収入計	10,043,982

イ 令和6年度支出状況 (単位: 円)

人件費	7,858,936
事業費	2,503,572
委託費	173,401
小額修繕費	69,740
その他	
支出計	10,605,649

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

--

(2) 利用者満足度把握の結果

--

(3) 意見等への主な対応状況

--

7 評価(指定管理者自己評価)

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防事業として、山科区地域介護予防推進センターなどと連携し「デュアルタスク体操」、「からだメンテナンス体操」、「脳トレーニング」などを毎月開催した。また、教養講座は空き教室を利用し、「LINEとスマホ決裁講座」や「いきいき元気食講座」「ハンドメイド講座」、また、利用者から要望があった演奏で歌をうたう会を「皆で歌おうサロン」として実施する等、健康や趣味などの多種多様な内容からテーマを選び実施した。

令和6年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市山科中央老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時
【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
【管理業務】 (1) 窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） (2) 施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） (3) 消防設備定期点検 (4) 開所・閉所時の安全点検
【サービス向上のための取組】 (1) 職員資質向上のための研修 (2) 老人福祉センター利用案内の作成 (3) 施設・備品の団体利用についての規則を明確化 (4) 苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 (5) 安全確保のための事故報告書等の事例共有
（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

(1) 高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数18名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
(2) 介護予防（実施回数174回、延参加者数3,726名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
(3) 高齢者自主活動支援 同好会活動の支援（36同好会、実施回数814回、延参加者数14,514名） ボランティア活動への支援など（延参加者数1,089名） 山科区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数162名）
(4) 教養講座（実施回数112回、延参加者数2,718名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
(5) 地域交流事業 多世代交流（実施回数6回、延参加者数4名） 共同事業（実施回数2回、延参加者数39名）
(6) 生きいきサロン（実施回数47回、延参加者数923名） 虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。
(7) 各種相談（相談件数4件）
(8) 一般娯楽（実施回数334回、延参加者数3,966名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
(9) 各種広報紙の発行（約1,100部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
(10) その他 ・合築施設合同消防避難訓練 ・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校4名、京都保健衛生専門学校5名、 佛教大学保健医療技術学部看護学科8名） ・LINE公式アカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員2名 計4名
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、200万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、200万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

27,409 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 294日)

(3) 収支実績

ア 令和6年度収入状況 (単位 : 円)

委託料	13,852,933
その他	178,155
収入計	14,031,088

イ 令和6年度支出状況 (単位 : 円)

人件費	9,878,399
事業費	3,574,349
委託費	665,727
小額修繕費	61,200
その他	
支出計	14,179,675

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- (1) 「認知症サポーター養成講座」
認知症を学ぶ機会や理解度、イメージや印象等についての設問
【方 法】選択方式と自由記述で実施
【設問数】4問
【回答数】14

(2) 利用者満足度把握の結果

- (1) 認知症サポーター養成講座の結果 (回答14)
- ① 認知症について学ぶ機会の有無 : あった7、なかった6、無回答1
 - ② 受講後の認知症への理解度 : 理解できた13、できなかった1
 - ③ 受講後の認知症のイメージの変化 : 変わった10、変わらない1、無回答3
 - ④ 受講で感じたことや印象等
 - ・ 参考になった
 - ・ 未知の世界が多く、今後も前進しなければ
 - ・ 聞いたことが頭の中で落ち着いていない
 - ・ 話し手の体験談を交えての話が具体的でよかった
 - ・ 生活に取り入れ、優しい関係を送れそう
 - ・ 認知症は幅が広い 接し方が少しわかった
 - ・ 接し方が分かった
 - ・ 自分はならないとは思わない
 - ・ 自分も認知症に入っていると思うが、くよくよしなくなり、自分で正しく生きようと思っている
 - ・ 幼児に接するような気持で
 - ・ 早く医者に相談すること

(3) 意見等への主な対応状況

- (1) アンケート結果を今後の認知症サポーター養成講座に活かす

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、山科区地域介護予防推進センターや運動療法士と連携した「楽しい健康体操講座」「体力アップ講座」等を実施した。その他、講師による「じっくり学ぶ筋トレ講座」、ボランティアによる「フレイル予防体操講座」等を実施した。生涯現役社会の実現を目指し、同好会の希望を取り入れて活動しやすい環境づくりを図ることができた。また、関係機関等との連携による「認知症サポーター養成講座」、成年後見制度の理解を深める「成年後見講座」を山科老人福祉センターと共同事業として実施した。

令和6年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市下京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時 【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日） 【管理業務】 （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） （3）消防設備定期点検 （4）開所・閉所時の安全点検 【サービス向上のための取組】 （1）職員資質向上のための研修 （2）老人福祉センター利用案内の作成 （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化 （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有 （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。
--

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数3回、延参加者数48名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成 （2）介護予防（実施回数249回、延参加者数5,244名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援 （3）高齢者自主活動支 同好会活動の支援（33同好会、実施回数688回、延参加者数9,355名） ボランティア活動への支援など（延参加者数1,966名） 下京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者1,809名） （4）教養講座（実施回数83回、延参加者数1,230名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応 （5）地域交流事業 多世代交流事業（実施回数15回、延参加者数380名） （6）生きいきサロン（実施回数45回、延参加者数709名） 虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として 実施し、レクリエーション等を行う。 （7）各種相談（相談件数18件） （8）一般娯楽（実施回数297回、延参加者数3,621名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施 （9）各種広報紙の発行（約1,000部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知 （10）その他 ・合築施設防火訓練 ・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校9名、佛教大学看護学科15名、 京都中央看護保健大学校6名、近畿高等看護専門学校3名、京都府立大学1名、 京都ビューティー専門学校11名） ・交通安全・詐欺防止の啓発 ・詐欺の国際電話利用休止の啓発・申込受付場所の提供 ・LINE公式アカウントによる講座・つどいについての情報発信
--

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員1名 計3名
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、200万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、200万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

26,949 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 293日)

(3) 収支実績

ア 令和6年度収入状況 (単位 : 円)

委託料	13,539,268
その他	299,615
収入計	13,838,883

イ 令和6年度支出状況 (単位 : 円)

人件費	10,268,066
事業費	3,398,393
委託費	171,070
小額修繕費	117,700
その他	
支出計	13,955,229

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 講座:「認知症に見られる色んな症状には、実は理由があります！」

【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。

【設問数】6問

【回答数】25

(2) 講座: 知っておきたい『身元保証』ってなに？

【方法】参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。

【設問数】6問

【回答数】20

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) 講座「認知症に見られる色んな症状には、実は理由があります！」

受講の理由: 自分のため 64% 親族のため 16% その他 20%

内容: とても参考になった 56% 少し参考になった 24% その他 20%

主な自由記述: 専門医の話でよくわかった。対策について参考になった。

(2) 講座: 知っておきたい『身元保証』ってなに？

受講の理由: 自分のため 64% 親族のため 16% その他 20%

内容: とても参考になった 56% 少し参考になった 24% その他 20%

主な自由記述: 多くの人が入院、施設入所時には身元保証人が必要と思い込んでいるので
本日の講座テーマは非常に良かった。再度このような講座があれば参加したい。

(3) 意見等への主な対応状況

(1) (2) アンケート結果は今後の事業の参考とする。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、生きいき筋トレボランティアによる「さわやか筋トレ」、下京区地域介護予防推進センターと連携した「脳いきいき健康クラブ」「下京ほっこり教室」、その他講師による「練功十八法のつどい」「リズムダンスのつどい」「椅子に座ってヨガ講座」等を実施した。教養講座では、「スマホ使い方交流会」「編物講座」「手芸講座」「京の歴史と文化」等、利用者のニーズに応じた講座等を実施した。各種相談事業では、気軽に相談できる「ひだまりサロン」を月1回実施し、日々の悩み相談だけでなく居場所となるように実施し、必要に応じて関係機関を紹介した。

令和6年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市南老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- （3）消防設備定期点検
- （4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- （1）職員資質向上のための研修
- （2）老人福祉センター利用案内の作成
- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数2回、延参加者数22名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
- （2）介護予防（実施回数111回、延参加者数1,521名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（26同好会、実施回数538回、延参加者数6,375名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数60名）
南区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数401名）
- （4）教養講座（実施回数42回、延参加者数645名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- （5）地域交流事業
多世代交流（実施回数3回、延参加者数120名）
- （6）各種相談（相談件数8件）
- （7）一般娯楽（実施回数424回、延参加者数5,397名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋・卓球など）を実施
- （8）各種広報紙の発行（約850部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （9）その他
 - ・実習生受入れ（近畿高等看護専門学校3名）
 - ・京都市エコまちステーション拠点として、資源ごみ回収ボックスを常設及び臨時資源物回収の開催（年2回）
 - ・LINEアカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、契約職員1名

臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、200万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、200万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

15,139 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 293日)

(3) 収支実績

ア 令和6年度収入状況 (単位 : 円)

委託料	10,275,544
その他	238,967
収入計	10,514,511

イ 令和6年度支出状況 (単位 : 円)

人件費	7,344,833
事業費	2,142,120
委託費	495,261
小額修繕費	17,710
その他	
支出計	9,999,924

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- (1) 1認知症サポーター養成講座
認知症について学ぶ機会や理解、受講後の感想などについての設問

(2) 利用者満足度把握の結果

- (1) 認知症サポーター養成講座アンケートの結果

(3) 意見等への主な対応状況

- (1) アンケート結果は唐橋地域包括支援センター、東九条地域包括支援センターと共有し、今後の認サポ講座に活かす

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防事業では、南区地域介護予防推進センターと連携した「さわやか体操」では多くの参加者があった。一般娯楽事業としては、本年度新たにボッチャを導入し男女を問わず安全で親しみやすい娯楽を提供した。その他、更なる長寿化の進展を踏まえ、気軽に参加できる事業等を実施し、新規利用者の受入促進を図るとともに、認知症になっても安心して生活できる地域づくりの一助となるよう、認知症の正しい理解の普及啓発に努めた。

令和6年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市右京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】

月～土 午前9時～午後5時

【閉所日】

日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

【管理業務】

- （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
- （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
- （3）消防設備定期点検
- （4）開所・閉所時の安全点検

【サービス向上のための取組】

- （1）職員資質向上のための研修
- （2）老人福祉センター利用案内の作成
- （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
- （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
- （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

- （1）高齢者支え合い活動入門講座
未実施
※右京区社会福祉協議会での開催にあたり利用者へ周知・参加推奨した。
- （2）介護予防（実施回数192回、延参加者数4,101名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
- （3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（31同好会、実施回数336回、延参加者数3,010名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数192名）
右京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数540名）
- （4）教養講座（実施回数16回、延参加者数232名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
- （5）地域交流事業
多世代交流（実施回数2回、延参加者数44名）
- （6）各種相談（相談件数9件）
- （7）一般娯楽（実施回数1,200回、延参加者数8,926名）
いつでも誰でも参加できるつどい（健康麻雀、卓球など）を実施
- （8）各種広報紙の発行（約410部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
- （9）その他
・実習生受入れ（京都保健衛生専門学校7名）
・シェイクアウト訓練で地震時の対応を確認
・環境整備ボランティアによる環境整備を実施

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者

センター所長1名、契約職員1名

臨時職員2名（職員の代替職員として） 常時2名体制

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、200万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、200万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。

一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

16,757 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 293日)

(3) 収支実績

ア 令和6年度収入状況 (単位: 円)

委託料	9,856,497
その他	201,776
収入計	10,058,273

イ 令和6年度支出状況 (単位: 円)

人件費	7,615,899
事業費	2,541,950
委託費	164,051
小額修繕費	227,700
その他	
支出計	10,549,600

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

--

(2) 利用者満足度把握の結果

--

(3) 意見等への主な対応状況

--

7 評価(指定管理者自己評価)

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

その他、右京区地域介護予防推進センターと連携し、介護予防運動教室を月2回二部制で実施したほか、いきいき筋トレやロコモ体操教室、しっかり体操などを定期に実施するとともに、理学療法士による健康体操等を実施するなど、介護予防事業の充実を図った。また、地域の社会資源として宇多野社協や老人会等の学区各種団体との連携を図り、会場提供や備品貸出し等についての協力や支援、多世代交流事業として、うたの・ひこばえ児童館と卓球交流会及び折り紙交流会を実施し、相互理解への環境を育んだ。

令和6年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市右京中央老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】
月～土 午前9時～午後5時
【閉所日】
日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
【管理業務】
（1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等）
（2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理）
（3）消防設備定期点検
（4）開所・閉所時の安全点検
【サービス向上のための取組】
（1）職員資質向上のための研修
（2）老人福祉センター利用案内の作成
（3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化
（4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用
（5）安全確保のための事故報告書等の事例共有
（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容
京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数24名）
区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
（2）介護予防（実施回数137回、延参加者数5,544名）
健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
（3）高齢者自主活動支援
同好会活動の支援（39同好会、実施回数854回、延参加者数12,372名）
ボランティア活動への支援など（延参加者数2,829名）
右京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者数693名）
（4）教養講座（実施回数70回、延参加者数893名）
生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
（5）地域交流事業 未実施
（6）生きいきサロン（実施回数36回、延参加者数441名）
虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として
実施し、レクリエーション等を行う。
（7）各種相談（相談件数2件）
（8）一般娯楽（実施回数400回、延参加者数6,518名）
いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
（9）各種広報紙の発行（約1,200部/月）
施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
（10）その他
・合築施設合同消防避難訓練
・実習生の受入れ（佛教大学看護学科、京都中央看護保健大学校、近畿高等看護
専門学校）

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者
センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員1名 3名

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、200万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、200万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。
一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数(延べ人数)

30,625 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 293日)

(3) 収支実績

ア 令和6年度収入状況(単位: 円)

委託料	13,762,933
その他	228,270
収入計	13,991,203

イ 令和6年度支出状況(単位: 円)

人件費	10,034,440
事業費	3,699,681
委託費	747,223
小額修繕費	38,155
その他	
支出計	14,519,499

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 認知症講座

フレイル予防の大切さを周知するため実施。感想と要望を集約し、次年度共同実施事業に活かすために行った

【方法】選択方式と自由記述で実施

【設問数】6問

【回答数】28

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) 認知症講座アンケート

大変良かった 57%
良かった 43%
もう少し 0%
良くない 0%

(3) 意見等への主な対応状況

(1) 「参考になった」という意見が大半。中には「体験者、体験談を知りたい」という要望もあった。引き続きの講座開催の際の参考とする。

7 評価(指定管理者自己評価)

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、右京区地域介護予防推進センターによる「ころばん体操」「やさしい体操」等を実施した。その他高齢者自主活動支援事業として、舞台発表会の運営委員会等を開き、円滑に実施することができた。また、教養講座では講師による「たのしい手芸講座」等、右京消防署による「家庭での防火・地震対策」、地元太秦に関する講座を3年連続して実施した。

令和6年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市西京老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時 【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日） 【管理業務】 （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） （3）消防設備定期点検 （4）開所・閉所時の安全点検 【サービス向上のための取組】 （1）職員資質向上のための研修 （2）老人福祉センター利用案内の作成 （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化 （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有 （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。
--

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数8名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成 （2）介護予防（実施回数711回、延参加者数7,266名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援 （3）高齢者自主活動支援 同好会活動の支援（45同好会、実施回数866回、延参加者数9,433名） ボランティア活動への支援など（延参加者数254名） 西京区老人クラブ連合会等への支援（延参加者486名） （4）教養講座（実施回数30回、延参加者数552名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応 （5）地域交流事業 多世代交流事業（実施回数4回、延参加者数448名） 共同事業（実施回数3回、延参加者数270名） （6）生きいきサロン（実施回数45回、延参加者数775名） 虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として 実施し、レクリエーション等を行う。 （7）各種相談（相談件数22件） （8）一般娯楽（実施回数432回、延参加者数4,771名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施 （9）各種広報紙の発行（約1,800部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知 （10）その他 ・合築施設の防災訓練 ・学習支援（14回） ・実習生の受入れ（京都府医師会看護専門学校9名、京都保健衛生専門学校4名） ・日常生活自立支援事業について、西京区社協から金庫及び通帳預かり業務を受託し協力

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員2名 計4名
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、200万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、200万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

28,776 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 293日)

(3) 収支実績

ア 令和6年度収入状況 (単位: 円)

委託料	13,762,933
その他	275,835
収入計	14,038,768

イ 令和6年度支出状況 (単位: 円)

人件費	9,989,709
事業費	3,795,442
委託費	690,900
小額修繕費	125,400
その他	
支出計	14,601,451

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- (1) 認知症サポーター養成講座 アンケート
西京デイサービス 施設長 鈴木氏と西京老人福祉センター職員による講座。感想と要望を知り、次年度に活かすためアンケートを行った。
【方法】参加者に対し、記述方式で実施。
【設問数】5問
【回答数】10

(2) 利用者満足度把握の結果

- (1) 認知症サポーター養成講座アンケートの結果
【受講前】
①あなたは「認知症」という言葉からどのようなことを思い浮かべますか？
・物覚えが悪くなる(覚えられない) ・すぐ忘れる ・同じことを何度も何度も繰り返す
・直前にあったことを忘れる ・名前がでてこない ・母を思い出す
・家族に一番迷惑をかける病気 ・私自身一番おそれている病気
②これまで自分の家族、身近な人又は各種活動や業務で接した人などを通じて、認知症(認知症かもしれないと思われることも含む)にまつわる経験がありますか。
・親しい方とLINEでやりとりしているがもらったこと、あげたことを忘れてることが多い。
・逆らわずなんでも聞いてあげる。ゆっくり話してあげれば何でも理解してもらえる。
・近所の人認知症になり、一番親しくしていた人だから私をたよりにしてくるし、どう接していいのか。
【受講後】
③受講して「認知症」のイメージは変わりましたか。
・誰でも認知症になるので自分が出来る事は何でも協力してあげたい。
・明日はわが身で気を付けたいと思うが、少しづつ進むと自分では気づけないのでは。
・暗く落ち込まず、人に相談、助けを求める、医者相談する。
④自分が「認知症」になったら、どのような暮らし送っていきたいか考えてみましょう。
・家族にも支えてもらう。前向きに生きる。
・家族に迷惑をかけない生活がしたい。
・根が呑気なので、変わらず暮らせたらと思う
・なってみないとわからないです。
・少しでも他人には、迷惑をかけないで暮らしていきたい。
・答えではないですが、良く笑い、良く歩き、よく話し、今元気なことに皆様に感謝(私に関わってくれる人すべてに)
・悩みなど一人でため込んだと思いますが、相談しやすい方にはしてみようと思います。

- ⑤「認知症サポーター」として、これからできそうなこと、やっていきたいことを考えてみましょう
- ・また、自分なりに頑張っていきます。
 - ・出来ることは何でもやっていきたい。
 - ・出来るだけ誘い出して人との接点を作ってあげたい。何でもじっくり聞いてあげる。
 - ・人の話を聞く。助けられることは行う。

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケートの結果は、西京デイサービスと共有し、今年度の講座内容の参考とする。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、西京医師会による「すこやか講座」、西京区地域介護予防推進センターによる「のんびり体操」「筋トレ教室」等、西京竹エクササイズサポーターによる「竹エクササイズ教室」を実施した。高齢者自主活動支援事業では、同好会「さわやか音楽体操同好会」の新規立ち上げの支援等、利用者のニーズに沿った事業を行った。教養講座では講師による「スマホ講座」、西京消防署による「救命救急講座」、職員による「認知症サポーター養成講座」を実施した。

令和6年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市洛西老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時
【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
【管理業務】 （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） （3）消防設備定期点検 （4）開所・閉所時の安全点検
【サービス向上のための取組】 （1）職員資質向上のための研修 （2）老人福祉センター利用案内の作成 （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化 （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有
（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数6名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成
（2）介護予防（実施回数324回、延参加者数5,244名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援
（3）高齢者自主活動支 同好会活動の支援（65同好会、実施回数1,444回、延参加者数19,347名） ボランティア活動への支援など（延参加者数3,968名） 伏見区老人クラブ連合会等への支援（延参加者531名）
（4）教養講座（実施回数23回、延参加者数473名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応
（5）地域交流事業 多世代交流事業（実施回数5回、延参加者数263名）
（6）生きいきサロン（実施回数46回、延参加者数795名） 虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。
（7）各種相談（相談件数10件）
（8）一般娯楽（実施回数299回、延参加者数4,972名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施
（9）各種広報紙の発行（約1,500部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知
（10）その他 ・防火避難訓練（利用者参加） ・シェイクアウト訓練 ・実習生の受入れ（京都中央看護保健大学校、京都府医師会看護専門学校学生） ・地域団体等の作品展示 ・アルミ缶・プルトップ収集協力 ・LINE公式アカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員1名 計3名
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、200万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、200万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数(延べ人数)

40,643 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 293日)

(3) 収支実績

ア 令和6年度収入状況(単位: 円)

委託料	28,794,604
その他	365,165
収入計	29,159,769

イ 令和6年度支出状況(単位: 円)

人件費	9,709,318
事業費	18,860,214
委託費	422,981
小額修繕費	18,785
その他	
支出計	29,011,298

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 「やさしい筋トレ」参加者アンケート

参加者の感想・要望等を聞き取り、今後の事業運営の参考にするために実施した。

【方法】年度末に参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。

【設問数】7問

【回答数】41

(2) 「健康講座」参加者アンケート

年間5回実施。各回のテーマ ①腰痛 ②お薬 ③みみはなのど ④認知症 ⑤栄養

参加者の参加動機と感想・要望等を聞き取り、今後の事業運営の参考にするために実施した。

【方法】講座終了後に参加者に対し、自由記述方式で実施。

【設問数】自由記述のみ1問

【回答数】①24 ②17 ③36 ④25 ⑤20

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) 「やさしい筋トレ」参加者アンケートの結果(複数選択可)

- 参加について
 - ・初めて 4 ・初めてではない 37
- 参加して役立ったこと
 - ・筋力が鍛えられた 32 ・体調がよくなった 30
 - ・方法の理解 36 ・交流が楽しい 23 ・その他 5
- よかったメニュー
 - ・筋トレ 35 ・ストレッチ 24 ・脳トレ 15
- きつさ
 - ・ちょうどよい 31 ・物足りない 4 ・無回答 7
- マット使用
 - ・よい 12 ・椅子がよい 9 ・どちらでもよい 13 ・無回答 3
- 自宅での実施
 - ・週1~2回 14 ・月1~2回 1 ・時々 17 ・していない 1
- 実施時間
 - ・もっと短く 0 ・ちょうどよい 29 ・もっと長く 5 ・無回答 7
- 自由記述
 - ・楽しい。わかりやすい等の感想がほとんど。
 - ・言葉よりやってみせてほしいという意見もあった。

(2) 「健康講座」参加者アンケートの結果(主な内容のみ記載)

- ①腰痛
 - ・腰痛は場合によっては、一生の付き合いと認識しました。
 - ・適度の運動が大切なことを知りました。
- ②お薬
 - ・免疫力を高める食事や身体を温める食事など詳しく聞けてよかったです。
 - ・薬剤師の重要な役目がよくわかりました。
- ③みみはなのど
 - ・鼻、耳、のどは身近な症状なのに根本的な治療法はないと初めて知った。
 - ・誤嚥の予防を聞けてよかったです。
- ④認知症
 - ・認知症予防には運動すること、人と会話することが大切だと思いました。
 - ・かなり認知症についてわかりました。ありがとうございました。

(3) 意見等への主な対応状況

- | |
|--|
| (1) アンケートの結果は筋トレ西ネットと共有し、次年度の事業の参考とする。
(2) アンケートの結果は西京医師会と共有し、次年度の事業の参考とする。 |
|--|

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。 介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。 収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。 知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。 同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。 事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。 障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。 介護予防の取組として、筋トレ西ネットによる「やさしい筋トレ」、西京医師会による「健康講座」、西京区地域介護予防推進センターと連携した「簡単エアロエクササイズ」等を実施した。高齢者自主活動支援事業では、センター開所20周年にあたり、同好会の発表会「らくろうフェスタ」「記念コンサート」等を実施した。教養講座では、講師による「スマホ使い方講習会」「歴史講座」、西京消防署による「普通救命講習会」、地域包括支援センターによる「認知症サポーター養成講座」等を実施した。また、「楽朗演芸団」や「洛朗文化会」の活動や知恵シルバーセンター事業と連携した地域における社会貢献活動等を実施した。

令和6年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市伏見老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時 【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日） 【管理業務】 （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） （3）消防設備定期点検 （4）開所・閉所時の安全点検 【サービス向上のための取組】 （1）職員資質向上のための研修 （2）老人福祉センター利用案内の作成 （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化 （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有 （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。
--

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数14名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成 （2）介護予防（実施回数377回、延参加者数5,959名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援 （3）高齢者自主活動支 同好会活動の支援（33同好会、実施回数816回、延参加者数15,196名） ボランティア活動への支援など（延参加者数5名） 伏見区老人クラブ連合会等への支援（延参加者631名） （4）教養講座（実施回数51回、延参加者数817名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応 （5）地域交流事業 多世代交流事業（実施回数4回、延参加者数269名） （6）生きいきサロン（実施回数45回、延参加者数454名） 虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として 実施し、レクリエーション等を行う。 （7）各種相談（相談件数14件） （8）一般娯楽（実施回数126回、延参加者数1,935名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施 （9）各種広報紙の発行（約1,200部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知 （10）その他 ・合築施設防火避難訓練 ・シェイクアウト訓練 ・実習生の受入れ（京都保健衛生看護専門学校3名） ・京都府警察本部生活安全企画課による特殊詐欺対策啓発活動の実施協力 ・LINE公式アカウントでの情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員1名 計3名
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、200万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、200万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

30,767 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 293日)

(3) 収支実績

ア 令和6年度収入状況 (単位 : 円)

委託料	13,396,268
その他	253,919
収入計	13,650,187

イ 令和6年度支出状況 (単位 : 円)

人件費	9,735,355
事業費	3,339,227
委託費	160,726
小額修繕費	11,000
その他	
支出計	13,246,308

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

事業の感想と要望を知り、次年度事業に活かすためアンケートを行った
 【設問1】・非常に良かった ・良かった ・普通 ・あまり良くなかった ・良くなかった ・無回答
 【設問2】講座の感想、意見
 【設問3】今後の講座の希望

(1) 5/7 「100歳体操」参加者アンケート
 【方法】 参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。
 【設問数】 3問
 【回答数】 24

(2) 7/16 「昭和男の筋トレ」参加者アンケート
 【方法】 参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。
 【設問数】 3問
 【回答数】 8

(3) 11/9 「足と靴の健康講座」参加者アンケート
 【方法】 参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。
 【設問数】 3問
 【回答数】 17

(2) 利用者満足度把握の結果

- (1) 「100歳体操」 参加者24名 非常に良かった11名 良かった10名 普通1名 無回答2名
(2) 「昭和男の筋トレ」 参加者 8名 非常に良かった 1名 良かった 7名 普通0名 無回答0名
(3) 「足と靴の健康講座」 参加者17名 非常に良かった 8名 良かった 8名 普通1名 無回答0名

※あまり良くなかった 全て 0名、 良くなかった 全て 0名

(1) 5/7 「100歳体操」参加者アンケート

1. 今回の講座内容について、あてはまるものをまるで囲んでください
非常に良かった11名 良かった10名 普通1名 あまり良くなかった0名 良くなかった0名 無回答2名

2. 講座のご感想やご意見をご自由にご記入ください

- ・とても良かった。楽しかったです (6)
- ・毎回私たち生活に良い話など聞かせてもらってとてもありがたいです
- ・とても楽しくやれました
- ・解りやすく教えていただきいつもありがとうございます
- ・面白おかしく楽しかった
- ・わかりやすく楽しい講座でした
- ・ゴムでこんなに体操で疲れてしまう。良かった、家でもしたい
- ・今日の体操は、初めてだったけど良かった
- ・運動の実技をしてもらえるのがありがたい
- ・とてもためになった。日常使わない筋肉を使ったように思います

- ・いつも参考になるお話しありがとうございます。西洋医学ではなく東洋医学に賛成です
- ・お話しも筋トレも良かったです
- ・肩甲骨の運動量が鍛えられた

3. 今後こんな講座があれば参加したいなどがあればご記入ください

- ・今後も続けて参加したい (4)
- ・股関節や腰、膝などの講座お願いします
- ・今日のような体操と前のような何故こうなっているという話も入れてください
- ・今回はよかった

(2) 7/16 「昭和男の筋トレ」参加者アンケート

1. 今回の講座内容についてあてはまるものをまるで囲んでください
非常に良かった1名 良かった7 普通0名 あまり良くなかった0名 良くなかった0名 無回答0名

※あまり良くなかった 全て 0名、 良くなかった 全て 0名

2. 講座のご感想やご意見をご自由にご記入ください。

- ・1か月1回では少ないと思う
- ・丁度良い
- ・その日一番気に入った体操を毎朝やる様にしている
- ・記憶力が悪く、教えてもらった事柄を覚えていられないことが残念です

3. 今後こんな講座があれば参加したい。などがあればご記入ください

- ・非常に参加したい
- ・コーラス
- ・健康に良い食物（肉・野菜etc）を教えてください
- ・筋トレ・脳トレ講座あれば参加したい
- ・他の行事と日が違っていればやれると思う

(3) 11/9 「足と靴の健康講座」参加者アンケート
(意見無し)

(3) 意見等への主な対応状況

- ほとんどが、また企画してほしいとの好感的な意見であった。
- アンケート結果は各講師と共有し、今年度の事業の参考とする。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

介護予防の取組として、いきいき筋トレボランティアによる「いきいき筋トレ」、伏見区地域介護予防推進センターと連携した「ファイン体操教室」「みんなのヘルスケア講座」、講師による「100歳生きいき講座」、ボランティアによる「脳トレプリントの時間」、職員による「ココから体操」を実施した。教養講座では、利用者からのニーズが高いテーマを取り上げ、「スマホ初心者講座」「楽しい工房」「エコクラフト講座」等を実施。スマホ講座の一部修了者を対象にスマホコンシェルジュを育成し、伏見区社会福祉協議会と連携し、地域の高齢ボランティアの育成支援に努めた。

令和6年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市醍醐老人福祉センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間等】 月～土 午前9時～午後5時 【閉所日】 日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日） 【管理業務】 （1）窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） （2）施設の維持管理（館内清掃、開館業務、遺失物・拾得物の管理） （3）消防設備定期点検 （4）開所・閉所時の安全点検 【サービス向上のための取組】 （1）職員資質向上のための研修 （2）老人福祉センター利用案内の作成 （3）施設・備品の団体利用についての規則を明確化 （4）苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 （5）安全確保のための事故報告書等の事例共有 （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携を図りながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。
--

2 事業実施内容

（1）高齢者支え合い活動入門講座（実施回数1回、延参加者数14名） 区社会福祉協議会と連携して、生活支援サービスの担い手となる高齢者を養成 （2）介護予防（実施回数266回、延参加者数5,214名） 健康づくり・介護予防のための実践的講座を開催し、参加者の主体的継続的活動を支援 （3）高齢者自主活動支援 同好会活動の支援（44同好会、実施回数1,352回、延参加者数24,997名） ボランティア活動への支援など（延参加者数1,282名） 伏見区老人クラブ連合会等への支援（延参加者153名） （4）教養講座（実施回数47回、延参加者数1,224名） 生活に役立つ講座などを単発的に実施し、多様化するニーズに対応 （5）地域交流事業 多世代交流事業（実施回数3回、延参加者数110名） （6）生きいきサロン（実施回数44回、延参加者数878名） 虚弱な高齢者や閉じこもりがちな高齢者を対象に居場所や仲間づくりの場として実施し、レクリエーション等を行う。 （7）各種相談（相談件数52件） （8）一般娯楽（実施回数547回、延参加者数12,022名） いつでも誰でも参加できるつどい（囲碁・将棋など）を実施 （9）各種広報紙の発行（約1,500部/月） 施設の毎月の事業案内と関係機関への事業周知 （10）その他 ・合築施設防火避難訓練 ・実習生の受入れ（佛教大学、府医師会看護専門学校、京都中央看護保健大学校） ・チャレンジ就労支援事業の受入れ ・LINE公式アカウントによる講座・つどいについての情報発信

3 サービス提供状況

施設管理兼事業担当者 センター所長1名、嘱託職員1名、臨時職員1名 計3名
--

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会経理規程により、200万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、200万円未満の委託業務に関しては、随意契約としている。 一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積もり合わせを行っている。
--

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 施設利用者数 (延べ人数)

47,233 人

(2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数 : 293日)

(3) 収支実績

ア 令和6年度収入状況 (単位 : 円)

委託料	17,626,930
その他	307,172
収入計	17,934,102

イ 令和6年度支出状況 (単位 : 円)

人件費	9,805,204
事業費	3,394,876
委託費	3,014,905
小額修繕費	76,250
その他	
支出計	16,291,235

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

(1) 生きいきサロンアンケート

生きいきサロンで行っているレクリエーションと筋トレなどについて、今後内容の検討・改善等に活かすためアンケートを行った。

【方法】生きいきサロン参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。

【設問数】8問

【回答数】18

(2) 認知症サポーター養成講座

講座を通じて認知症の正しい理解にどうつながっているか確認し、今後の内容の検討・改善等に活かすためアンケートを行った。

【方法】講座参加者に対し、選択方式と自由記述で実施。

【設問数】4問

【回答数】12

(2) 利用者満足度把握の結果

(1) 生きいきサロンアンケートの結果（複数回答可）

①「レクリエーション」について

- ・どんなレクリエーションが好みか 身体を動かす37% 脳を使う33% 手指を使う30%
- ・個人戦のゲームは好きか 好む17% 好まない17% どちらでも良い66%
- ・椅子から立って行うレクリエーションについて 椅子が無くても大丈夫21% やや不安29% 椅子に座ってしたい12% どちらでもよい38%
- ・生きいきサロン全体について（自由記述） とても楽しい 人と仲良くできる いつも新しいレクで楽しい 今のままでよい

②「筋トレについて」

- ・筋トレで鍛えたいところ 足24% 腰23% 背中12% 腕12% 手13% 肩9% 首7%
- ・筋トレで説明を受けたいところ 足24% 腰24% 背中12% 腕12% 手9% 肩12% 首

7%

③自分の健康法について（自由記述）

つま先立ち 足踏み ウォーキング 体を動かすこと 卓球 筋トレ 社交ダンス
足上げ

(2) 認知症サポーター養成講座アンケートの結果

[性別] 女性12名

[年齢] 70歳代4名 80歳代6名 90歳代1名

① 認知症について学ぶ機会があったか：あった3名、なかった8名

② 講座を受けて認知症を理解できたか：よく理解できた3名、理解できた7名

③ 認知症のイメージは変わったか：大きく変わった1名、変わった8名、変わらない1名

その理由：

- ・誰もがなる可能性のある脳の病気、ストレスを小さくすることが必要
 - ・今は大丈夫と思っているがこの先分からない。この人おかしいと避けて通らず優しく接する様にしなくてはと思う。
 - ・認知症になったら、もうなっているかも。おかしい行動をした時、お医者さんに相談したらよい。
 - ・困っている人を見たら声かけしたい。
 - ・認知症の方とレベルを同じくすると全て楽になれそうです。
 - ・他人事ではない、自分のこととして考えました。
 - ・自分が感じていたことも違っていること。
 - ・最近丹野さんの本を読んで本人のしんどさと前向きな考え方が私の中で勉強になっていた。
- #### ④ 講座を受けて感じたことや、印象に残ったことなど。
- ・ビデオを見て相手の立場に立ってみる事、認知症を正しく知ることができました。ありがとうございました。
 - ・使っていない脳を使う、新しいことに挑戦することが大事。挨拶笑顔を大事に接する。
 - ・職員さんのわかりやすいお話を聞かせていただき勉強させていただきました。ありがとうございました。
 - ・認知症になった人のお話、家族との接し方に感動しました。ありがとうございました。
 - ・ケアハウスに住んでいるので周りの人たちの変わりように疲れて、この度受講させていただきました。少し元気をいただきました。ありがとうございました。
 - ・シンガーソングライター樋口一さんの歌をお聞きして、なお一層気を引き締めて今後生活をしていきたいと思います。
 - ・またもう一度話を聞かせてもらいたいと思った。
 - ・家族だけで解決できる問題ではないと改めて考えた。プロの方（介護者、支援者）にたくさん接していただき過ぎるのが大事と痛感しました。
 - ・時々このような講座を聞きたい人がいますので又講座を開いてほしいです。

(3) 意見等への主な対応状況

(1) アンケート結果は、生きいきサロンでのレクリエーション等の運営の参考とする。

(2) アンケート結果は、地域包括支援センター、デイサービスセンター、区社協等関係機関との共有により、今年度の講座内容についての参考とし検討・実施する。

7 評価（指定管理者自己評価）

京都市社会福祉協議会が運営する15箇所の老人福祉センターでは、京都市長寿すこやかセンター、老人デイサービスセンター、地域包括支援センター、児童館を運営しているという本会の特性と市・区・学区社協のネットワークを活かし、法人内連携を進めてきた。

介護予防事業、高齢者自主活動支援、教養講座については、気軽に参加できる講座等を取り入れ利用者の増加につながった。また、地域交流事業として、児童館や地域の関係機関等と多世代交流事業や共同事業を実施した。

収支状況では、施設の経年劣化により修繕費が増加していたため、京都市との協議により修繕を実施した。

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして、老人福祉センターで活動する同好会へ登録を呼びかけるとともに、高齢者が積極的に地域や福祉施設で活動できるよう支援し、地域福祉活動の推進を図った。

同好会世話人会等、事業運営に参画できる協議の場を設け、また「ご意見箱」を設置し利用者の声を事業運営及びサービスの改善・向上に活かした。

事業・業務の評価については、平成21年度より『老人福祉センター事業・業務評価マニュアル』の評価シートに基づき、事業・施設環境・職員力について、定期的に職員自身が評価して事業・業務の改善を図った。

障害を理由とした差別の解消に向け、職員会議等により理解を深めた。

介護予防の取組として、いきいき筋トレボランティアによる「いきいき筋トレ」、深草・醍醐地域介護予防推進センターによる「認知症予防教室」「体操教室」「認知症サポーター養成講座」等を実施した。その他講師による「スカイクロス」「ステッププラス」等、職員による「てづくりサロン」を実施した。教養講座では、利用者から要望のあるテーマ「歴史講座」「うたごえサロン」等を実施し、参加者数の増加につなげた。京都府警察本部による「特殊詐欺対策」を実施し、様々な観点からニーズに沿う講座を実施した。